

大原生涯学習センターにおける NPO 法人 Learning for All との連携事業について

令和3年10月より継続している、大原生涯学習センターの「i-youth」における、「NPO 法人 Learning for All（以下「LFA」という。）」との、子どもたちを包括的に支援する事業連携について、令和5年度予算に当該連携事業をモデルとした委託料が措置されたことから、協定に基づく連携事業の終了について報告する。

1 令和4年度の活動実績

(1) 令和4年度の事業内容

①非登録制：16時から18時

まなぼーと大原1階のi-youthに来ている不特定多数の子どもたちに対してLFAスタッフが関わり、遊びや勉強を通じて、子どもたちの困りごとを拾い上げる。

②登録制：18時から20時

困り事を抱えている子どもたちを対象とした登録制の個別支援として、困りごとに対する相談支援や子どもたちがやってみたいことを実現するプロジェクト学習を実施する。

③フードパントリー

上記①②の事業区分に関わらず、必要な子ども達に自宅で簡単に調理することができる食事を配布する。

(2) 実施状況

月	実施日数	参加者数	フードパントリー配食数	LFAスタッフ数
4月	8日	非登録：500名 ※登録制開始前	60食	35名
5月	7日	非登録：302名 登録：12名	60食	26名
6月	9日	非登録：354名 登録：16名	60食	31名
7月	9日	非登録：284名 登録：14名	60食	28名
8月	9日	非登録：513名 登録：9名	60食	37名
9月	8日	非登録：327名 登録：17名	60食	33名
10月	8日	非登録：449名 登録：21名	80食	39名
11月	8日	非登録：491名 登録：33名	96食	37名

12月	7日	非登録：381名 登録：35名	87食	32名
1月	8日	非登録：362名 登録：32名	90食	35名
2月	8日	非登録：330名 登録：30名	63食	32名

(3) 主な成果

①困難度の高い子ども達への支援

非登録制の時間において、利用者とLFAスタッフとの関係性が深まり、虐待・ヤングケアラー・不登校など、困難度の高いケースを5件把握した。中でも、リストカットや、夜の街に出かけて泊めてくれる人を探しているケース（大学1年女子）について、女性支援を専門としている機関につないだ。その他2件について登録制へ移行することで、より細やかな支援を行い、家庭の事情などで登録制に移行できないケースは非登録制で継続した見守りを行っている。

②登録制におけるプロジェクト学習

高校1年生（中学生の頃不登校）：将来仕事に役立つ堅実なスキルを身に着けたいという考えがあり、スタッフから「いたばしラボでは心からやってみたい・チャレンジしてみたいことを失敗してもいいからやってみてはどうか」という提案した。結果、不登校時代に彼の心の支えになった動画配信者をめざすプロジェクトを進めることとなり、現在は動画配信に向けて準備をしている。

高校1年生（中学生の頃不登校）：過去の自分を救ってくれたスクールソーシャルワーカーをめざしている。登録制では実際にソーシャルワーカーで働いている方にインタビューなどをしながら調べ学習を行っている。最終的に調べたことをスタッフや子どもたちに発表することを通じて自身の学びを深めることに加え、人前で話すことを克服することをめざしている。

③地域や関係機関との連携

志村第二小学校・志村第一中学校・志村第二中学校・都立桐ヶ丘高校と関係性が構築でき、課題を抱える子どもたちに関する課題共有を行った。その中で、2名の子どもを登録制の事業に接続することができた。

また、現在当課の中高生勉強会を受託しているNPO法人キッズドアなど、区内で若者支援の活動をしているNPO法人や、いたばし若者サポートステーション（就労前支援）、板橋区社会福祉協議会（中間支援団体）、主任児童員との関係性を構築することができた。

2 令和5年度における困難度の高い子ども達への支援について

LFAとの連携事業により、困難度の高い子ども達の状況把握が進む中で、子ども達には様々な背景があり、i-youthだけではなく周辺の学校とも連携した取り組みが重要であると認識した。そのため、組織間の連携をより促進するとともに、安定した事業展開という観点から、令和5年度より生涯学習課の委託事業として継続していく。

なお、委託仕様の調整及び個人情報保護の手続きにより、事業の開始が5月1日の見込みとなることから、支援の空白期間が発生しないようLFAと協議し、現在の協定書の終期を令和5年3月31日から、令和5年4月30日に延長することで合意した。